

「城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する
関係住民からの意見を聴く場」

議 事 録

日 時： 平成 28 年 2 月 22 日（月） 18：30 ～ 19：25

場 所： 佐賀県教育会館（第一会議室）

【発表番号 1 番】

皆さんこんばんは。私みたいに後期高齢者になってから皆さまの前に立ちますことをお恥ずかしい限りですけども、年とったからこそ長い世を見てきて、そして言えることがありますので、出掛けにちょっと文章を作って参りましたので読ませて頂きます。

鬼怒川が洪水に見舞われました。何度も報道はされませんが、鬼怒川って綺麗な言葉ですけど、ここには鬼が怒った川と書いてあります。それと城原川を私は重ねてしまいました。佐賀では今回も災害を免れてホッとしてますけど、やはり自然の力といいますか、台風が来るのはきっと大潮のときなんですね。それは不思議に繋がっているんです。だから自然界を無視したらいけないと思います。この城原川ダムの反対の原因は私は広滝発電所の生コンの上の方から見ましたら、佐賀平野が光って見えます。輝いて見えます。それはやはり、コントラストで輝いて見える所に、佐賀藩で財をなした人たちがここに明かりを灯してあげましょう、佐賀の平野に明かりを灯してあげましょうと思って、頑張って、頑張って、そして発電所の上からの導管で水を落とし、その水をまた城原川を通過させて岩盤を 3m も岩山の硬いところを掘って、九年庵の前の第 2 発電所で 2 度起こしているわけですね、その 3m のトンネルの掘るのに韓国人の労働者が亡くなったりしてるんです。佐賀への思いをこのように●●さん達が、九年庵を 9 年かけて造るのも、久留米のお坊さんに頼んで庭を造って、そんな関係は、玉屋さんの牛津にもその方が造られているんですね。やはり、皆さんは行って、その光を灯してあげようと思われた●●さんの気持ちを皆さん踏みにじることができますか。そしてやはり、2、3 年前にお亡くなりになりました●●のご主人は、一所懸命ここが、すぐ破堤しますよ、少しの雨でも大きい岩がゴロゴロ音立てて流れ着いてきます。だから、ここはすぐ破堤しますよとおっしゃってました。先人の知恵を大切に、そしてここが破堤したら、皆さんの住んでる光を灯してくれたところがみんな水浸し、低平地なんです。それを皆さんは考えてほしいと思います。そして、城原川を考える会を、佐大の先生が、取り上げて十何回なさいましたけど、その時もとうとうどっちとも意見が纏まらなくて、やはりお預け状態になりました。そして、城原川が氾濫する、氾濫するとおっしゃいますけど、それは世界的に見ても氾濫するところは潤うんですよ土地が。新たになるんですよ、蘇るんですよ、荒籠なんかで、うまく頭を使って城原川

の、●●さんといって、国土交通省の方が一所懸命手伝って、美しい川に野越しを残そうと思われて手伝って下さいましたけど、今こちらにいらっしゃいませんで残念で仕方ありませんけど、みんなの祈りと生活の中で培ったものは保護していかないといけないんじゃないでしょうか。城原川を考える会の時に、松本市長さんが参加された時がありましたので、ここは長崎本線が開通してすぐで、馬車でドイツのレンガからタービンから、船で技術者も来てそこでロマンスとかもあったと脊振の村史か読んだ記憶があります。それは、ダムができるとなったら、そこにゲートボール場とか変な家が建って、ダム反対で、みんなどこに行っても目にするんだけど、ここは早期ダムとおかしい、幕が張ってるって友人から指摘されました。ほんとにおかしいと思います。だからドイツ村を造って、そこで、余所と違う楽しいイベントができたらいいなと願っております。すみません、未だいっぱい書いておりますので、これで失礼します。

【発表番号 2 番】

私は、神崎市神崎町城原の●●です。よろしくお願いいたします。

私は、素案 2-68 に表示されている基本高水 690 トンこれは概ね 150 年に 1 回の確率で発生する洪水規模、平成 15 年 10 月 2 日策定されたものです。これ以降、平成 18 年 7 月 20 日に策定された河川整備計画の目標流量 540 トンについて意見を発表します。

基本高水 690 トンが妥当なものかどうかについては常に議論されてきました。今日に至っても疑問が持たれたままです。これは実際に流下した数字ではなく、モデル式に雨量を与えて算出されたものだからと思います。

昨年 9 月 10 日に鬼怒川が決壊し、それに関して多くの専門家から提言等がなされました。9 月 12 日の読売新聞の「河川氾濫どう対策 満点スペシャル」で東大教授、●●氏が「8 日午後 1 時から 48 時間に降った鬼怒川流域の平均雨量は 370 ミリ。国土交通省が 1924 年から 44 年間の降雨データを基につくった河川整備計画の基準に当てはめると、100~200 年に 1 度の雨となる。」と述べられていました。本当に古いデータが適用されているのに驚きました。これでは、最近の気象の大きな変化は反映されません。

今年に入って 2 月 12 日に「新たなステージに対応した防災・減災キャンペーン」第 1 回防災・減災シンポジウム」が開催され私も参加しました。

●●氏は「気候変動を踏まえた想定外の自然外力への対応について」基調講演されました。平均気温が 20℃から 21℃に 1℃上昇すると降水強度 1 割増加、豪雨頻度は 3 倍になると言われました。

佐賀では平成 20 年 6 月 19 日の県内全域を襲った集中豪雨を受けて、平成 21 年 5 月に「防災・減災フォーラム 2009」が開催されております。

この時も●●氏が基調講演されております。「地球温暖化と水災害」という表題で

した。5月31日の佐賀新聞で大きく報道されております。それによると「九州では1日あたりの雨量が20世紀末に比べて21世紀末は10%増える。豪雨の頻度で考えると非常に深刻で、100年に1度の豪雨が30～40年に1度起きることになる。堤防などの社会インフラの整備においても50年に1度の水害が20年に1度起こる可能性があることを念頭に置いた計画が必要だ。」と述べられております。

この2ヶ月後の平成21年7月に、素案2-40に記載されております洪水が発生しました。その写真がP2-40の2-2-27です。私の集落はその3号野越しのところにあります。当時、私は区長をしていました。翌年も同じ7月に洪水が発生しました。その写真がP2-42の2-2-36にあります。

このダム検証は、平成22年9月に有識者会議で出された「中間とりまとめ」に基づいて実施されていますが、その後の気象環境は大きく変化し、それでは対応が出来なくなっており、昨年12月に大規模氾濫を前提にした治水対策が答申され、「水防災意識社会再構築ビジョン」が策定され、今後5年間で「水防災意識社会」を再構築しますとされています。

最新のデータを取り入れた、有識者会議で「本とりまとめ」を作成していただいて、本当の安心・安全につながる検証をぜひ実施していただきたいと思っております。以上です。

【発表番号3番】

皆さん、こんばんは。

これだけ歳をとって、こういう所に来るがらじゃないんですけども、私は生まれが脊振村なんですね。今度ダムができる場所というのは政所です。政所。だから脊振村というのは、昔は東脊振と脊振村とが2つが脊振村だったんですね。それで政所ちゅうことは、その政所、今ダムができる場所は要するに政所、要するに首都と一緒になんですね庶民としてはですね。そういうところからこの私が高校3年の時、この堤防が決壊しました。私その時、神埼の方で、脊振だったけれども、神埼の方で、うちの家があったから、そこで私は下宿というか自炊というか、そういう形で学校へ行きました。それで堤防が切れた時、すぐ、昔は鶴田橋と言ってましたけども、当時はまだ川幅が狭くて、要するに鶴田橋のほんの横から決壊して要するに千代田の方に流れていったかと思っております。で、東の方が決壊しましたですね。そういうことから非常にこの城原川というのも、この造るということについて私は反対論文を出しました。で、反対論文を出したのはどういうことかということ、要するにそこにダムが出来ると脊振はもうバラバラになっちゃうんですね。それが大きな問題です。私、故郷を無くすようなものなんですね。だから、私も小学校から色々この脊振に住んでて要するに脊振は日本一のものがいっぱいあるんですね。そういうことから学校でも日本一の人間になれよとか色々教育を受けて育った、要するに小学校1年生の時に戦争が始まって5年で終戦というような、その中で小学3年生から

6年に終戦になるまでほとんど勉強しておりません。道具を持って学校に行っていました。山を開墾してそこで芋を植えたり色々させられまして、勉強しないで。だから昭和一桁というのは本当に良いときに生まれたか悪いときに生まれたのか分らんけども、私は良いときに生まれ色々経験させてもらえたということは良いことかと思えます。まあそういう事から北山ダムの審議会がありましたですね。さきほど言っておられましたですね。審議会もこの●●先生の審議長の時に私も行きました。そして出てこいということは、論文を先生あたりに出しとったから論文を見られて、要するにあんたもいっぺん出てきて下さいよという事から行きました時に、このダムの建設はプラスマイナスゼロですよというのがありましたですね。造っても造らんでもどっちでんよかと、金は費やす必要は無いようなことを聞いたんですね。それまでしてダムを造る価値があるかどうかということですね。その当時ここに書いてあります1020億円という事ではありますが、今、今度は400いくらかになっておりますけども、要するにこの流水ダムというのは私は、あんまりよく分かりませんが、砂防ダムの気の利いたようなものかなとも思ってますけども、実は城原川というのは天井川なんですね。この家なんかも天井川ですから下に、やっぱり成富兵庫さんも水は上に流すことはできなかったから、で、要するに天井川になってしまう。だから天井川にしなければいいじゃないかと。それから、ある程度この幅員を広くする事によって、すると流水が出来るという事と、大体脊振に降った雨というのは有明海に行くのに3時間もあつたら有明海に流れてしまうんですね。そういう事からいきまして要するに、このダムの必要性は無いというのは私はちょっと、この森林関係の方を勉強しましたけども、脊振のあるいは森林組合、鳥栖と合併しておりますけども、要するに混合林業というのをやれば地球というのはいつまでも大丈夫なんですね。一斉林業というのをやっております。今まで脊振でですね。脊振は日本で一番行政が造林をやっていくというのは脊振が日本で初めてじゃないかと思えます。二千五百町歩。とってお金が足りなくなって、途中で国のお金の観光造林によって造林をされております。その造林も全部税金を納めておくことによって年間何日出なさいという事で、要するに植林を行われておるんです。それから見まして当時の事を考えると脊振村が一番神埼に近いところで出来た場合には、もう脊振はバラバラになってしまう。

政所も要するに反対の人と賛成の人とおられると思うんですけども、少数の人が賛成で多くの人が反対していると、脊振村の要するに住民投票して決定はしてもらいたいな私思っております。下の方だけ考えて上の方のことは考えない計画はあるかちゅう事ですね。これには非常に私は憤慨しておるんです。大きな事言うと悪いですけども選挙法から解釈せにゃいけないけれども、そういうことで過疎地になればなるほど過疎地になっていくのが今、この日本の現状なんです。都会だけ大きくなって、あとはほったらかし。私も老人ですから、老人はもうほったらかしですからね。だから、そういうことから考えて脊振は私の郷土ですから、私は絶対反対。だからその時、造ると同時に市民から反対の声が届いてると思えますので、よく関

わる係の方よく読んであーして下さい。もっと出してくれと、また出してくれと言われたら、そしたら私持っておりますから、コピーしていくらでも差し上げますから。そういうことで反対をさせて頂きたいと思いますので、皆さんよろしく願いいたしたいと思います。ごめんくださいどうも。